

会 議 録

I. 附属機関等の会議の名称

令和6年度 第1回 松川町地域公共交通対策協議会

II. 開催日時

令和6年5月28日（火） 午前10時00分～11時30分

III. 開催場所

松川町役場 協議会室

IV. 出席者氏名

《委員》

北沢秀公会長 水野一昭副会長 藤澤洋二委員（代理/堀内郁勇） 片桐実委員（代理/片桐博）
田村健一委員 大澤勲委員 福澤友安委員 細田勉委員 松下文子委員 原節子委員
山岸康範委員 岩下秀樹委員（代理/高橋正俊） 唐澤則夫委員（代理/清水範浩）
笠原敏克委員（代理/鈴木寛人） 中村昌彦委員 塩倉智文委員 鈴木正満委員
溝上正弘委員

《事務局》

黒澤哲郎幹事長 松尾天事務局長 大橋良平事務局員 元木ともみ事務局員

V. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

VI. 傍聴人の数

6人

VII. 協議事項（公開）

- (1) 令和5年度事業及び決算報告について
- (2) 令和6年度事業計画及び予算（案）について
- (3) 生活交通確保維持改善計画（案）について
- (4) 監査委員の選出について

VIII. その他

IX. 会議資料の名称

次第及びVIIに係る資料

X. 審議の概要

1. 開会（水野副会長）

2. 会長挨拶（北沢町長）

〈事務局より説明〉

協議会規約第7条により会長が議長となる。

また、委員18名中13名の出席、代理出席による委任状5名提出により本会議は成立する。

3. 協議事項

(1) 令和5年度事業及び決算報告について

〈事務局より説明〉

委員：チョイソコまつかわの回数券について、販売実績が124冊とのことであったが、実際に使用されたのはどのくらいか。

事務局：124冊の販売実績は実際に現金で購入された分で、免許返納対策分とは分けて計算している。回数券を販売開始してから利用者の決済方法は7割から8割くらいは回数券になっている。全体を通してみてもそのくらいの利用状況にあると考えている。

委員：定時定路線を廃止してチョイソコまつかわをスタートさせた経緯についてもう一度説明願いたい。この事業を7,000万円かけて運用する目的も併せて説明願いたい。

事務局：チョイソコまつかわを導入した理由として、人口が減少していく中で、高齢者の運転者が増えており、公共交通の利用が減少傾向にあることが一番に挙げられる。その中で、令和3年度に高齢者2,000人に公共交通に関するアンケート調査を実施、意見を求めたところ、路線バスについての意見要望が多数寄せられた。使いたくても使いにくい公共交通のままでは立ち行かなくなるという議論の中で、定時定路線から、新しいスタイルのデマンド交通というものに切り替えるという議論が出発した。

協議会の予算は確かに7,000万円だが、デマンド交通と路線バス3路線分の合計で7,000万円が計上されている。路線バスで3,200万円、デマンド交通は残りの3,800万円ほどということになる。デマンド交通はどうしても専用の管理システムを導入しなければならないことや、予約制の乗り物のためコールセンターを設置する必要があり、コミュニティバスに比べてコストは上がる。そういったコスト面を見ながら利便性を確保し、利用状況を伸ばしていくという議論の中でチョイソコまつかわを導入するに至った。

財源については町からの負担金ということで年間7,000万円程度もらっているということになるが、その中の約半額については特別交付税が毎年交付されている。また、その残り半額部分についても、フィーダー系統補助金という形で毎年300～500万円ほど交付されるため、実質の町からの持ち出しは特別交付税およびフィーダー系統補助金などの補助金を差し引いた額という形になる。

委員：承知した。今の説明によると補助金等を差し引いて実質の持ち出しは3,000万円ほどになるということは理解したが、それだけの金額をタクシー会社へ使い、タクシー事業を行うことは検討しなかったのか。町の事業として路線バスやチョイソコまつかわを行うことと、タクシー事業を行うことの単純な違いを説明願いたい。

事務局：大きな違いは運行効率である。タクシーは1回の予約で1人の乗客が乗る。デマンド交通は乗り合いが発生するため、1つの車両で2人以上人員を運ぶことができる。輸送効率で見るとデマンド交通は路線バスよりは悪いことは明らかであるが、それは輸送規模が小さくなればなるほどその分輸送効率が悪くなるということである。これらを踏まえ、まずはタクシーではなく、デマンド交通をやってみるということでチョイソコまつかわを運行している。

委員：承知した。様々な方法で精一杯広報活動などをされているのはこちらも承知している。ぜひこの事業がいろんな方法で、いろんな人が利用しやすい事業になるように取り組んでいただきたい。スタートしてから間もないということもあるが、10年後には『いい事業だ』と町民に認められるような事業にしていっていただきたい。

事務局：仰る通りだと思っている。そうなれるよう取り組んでまいりたい。

【令和6年度事業及び決算報告について承認】

(2) 令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について

＜事務局より説明＞

委員：コロナが明けてから中学校の朝の部活動がなくなった関係で、朝一の路線バスの利用者がいない。部奈線に関しては高校生が乗車しているが、他2路線については全くと言っていいほど乗車していない。乗務員側からも『減便してもいいのではないか』という意見が多く上がっている。今後こういった会議の中で、減便についても議論していただきたい。

先ほどの質疑の中で話が上がったが、チョイソコまつかわの利用者については上片桐の利用者が少ないように思う。路線バスの時は上片桐の利用者も多くいた。チョイソコになってからは上片桐の利用者は少なく、利用者の中にも『こんなの知らなかった』と言っている人が多い。もう少し地域に踏み込んで、サービスを浸透させる必要があるのではないか。

事務局：路線バスの利用状況については我々も問題意識がある。今年度については取り急ぎお盆の運行について踏み込んだが、早朝の便についても、燃料代が高騰していることや車両が老朽化していることなども踏まえながら、その運行について今後議論してまいりたい。路線バスの利用者の大半は小中学生であることから、教育関連部局との連携も図りながら議論を進めてまいりたい。

チョイソコまつかわの上片桐の利用者の件については、昨年度の冬時点では人口の割に利用している方が少ないという結果が出ている。しかし、上片桐に関してはその利用について割合が高くなってきている。その理由として昨年度末に上片桐区長に自治会長が集まる場でチョイソコについて説明していただいたことが大きい。そういったものの効果が出始めていると感じている。あとは免許返納対策への踏み込みも大きな要因のひとつである。

本日も住民代表として区長に来ていただいているが、住民代表の方々の協力というのはチョイソコを浸透させることとしてはとても重要なことである。今後もご指導いただきながら事業を進めてまいりたい。

委員：上片桐を通る通学便は朝6時20分頃松川高校西の停留所を出発して、八十葉建設前を6時30分頃通過する。そのあと桑園方面へ行ってしまうため、実質15分以上遠回りしていることになる。その結果、子どもたちはバスを利用せずに車で送ってもらうなどをしてしまう。そこでチョイソコまつかわをうまく活用できないか。チョイソコまつかわは運賃が250円かかる、そして毎回予約が必要というところで、いざ活用するとなっても子どもたちがうまく利用できるか疑問が残る。いろんな方法があるかと思う。ぜひ工夫していただいて、子どもたちも便利に利用できるよう研究していただきたい。

事務局：承知した。子どもたちをはじめ、誰でも利用しやすい公共交通になるように検討してまいりたい。

【令和6年度事業計画（案）及び予算（案）について承認】

(3) 生活交通確保維持改善計画（案）について

＜事務局より説明＞

【生活交通確保維持改善計画（案）について承認】

(4) 監査委員の選出について

＜事務局より説明＞

※質疑・意見なし

【監査委員の選出について承認】

4. その他

5. 閉会（水野副会長）